

“至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2019 第1号（1年生版）

はじめに

4月8日の入学式に生徒の皆さんと保護者の方にはごあいさついたしました。改めまして、鈴木達哉 と申します。教諭時代は川越高校、津高校と進路部長として進学指導に携わってきました。校長としては西日野にじ学園、四日市南高校について3校目になります（今年度で定年なので本校が最後の学校になると思います）。部活動は桑名工業時代も含めてずっと野球部の監督・部長として25年間指導してきました。昨年からは高野連の会長にも就いています。創立123年目という三重県でも2番目の歴史を誇る四日市商業高校の新たなる発展に少しでも尽力できるよう最後の1年を過ごしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

12日の集会でも生徒の皆さんには少しお話しましたが、校長という仕事はなかなか直接、生徒にかかわるという機会がありません。自分の思いや考えを少しでも知ってもらうため、昨年の赴任以来、1か月に1回、校長便りを発行させていただいています。生徒はもちろんのことですが、ぜひとも保護者の皆さんにもご一読いただき、校長の考え方を知っていただけるとありがたいです。（生徒の皆さんはぜひ家に帰ったら保護者の方にも渡して読んでもらってください）

“至誠”について

“至誠”という言葉が本校の校訓であることはみなさんも様々なところで聞いているので知っていると思いますがその意味について知っていますでしょうか。辞書を引くと「この上ない誠実さ」と出てくるんですが、もともとは古代中国の孟子の言葉で「至誠にして動かざる者は、未だ之有らざるなり（誠を尽くして人に接すれば心を動かさない者はいない（誰もが心を動かさず）」を出典にしており、江戸時代おわりには吉田松陰が「松下村塾」において好んで用いた言葉です（明治時代の偉人たちがこの言葉を支えに近代日本を作ってきたことを考えればすごく偉大な「志」を含んだ言葉ですね）。本校120年の歴史を支えてきた考え方だといってもいいでしょう。本校生徒の人格形成において、これからも絶対に貫かなければならない言葉だと私自身、改めて感じています。

不易流行とキャリア教育

昨年来、ずっと言い続けているこの二つの言葉。「覚えておいてね」と言いましたが、皆さん1か月ほどたちますが覚えていてくれましたか。「不易流行」の「不易」は「いかに時代が変わろうと変わってはいけない、変えてはいけないこと」。皆さんにとっては“至誠”がまさにそれに当たります。一方で世の中が変わる中で変化させなくてはならないものもある。それが「流行」です。

例えば、私たちがまだ学生であった“高度成長時代”（こんな言葉、知ってる？）には、学校の教育もいかに多くの知識を身につけさせるかが求められました。生徒のほうもその教育に応える「勤勉さ」が第一に求められ、社会や仕事上で必要な能力は「会社へ入ってからその中で高めていく」。そんな時代もありました。しかし、時代は変わり 21 世紀は「グローバル化」「情報化」時代になりました（今はまだ混在しているためわかりにくいかもしれません）。そこで求められる能力は「知識を持っている」だけではなく、「持っている知識をどう使うか」に力点が移ります。少子化、高齢化、環境問題など様々な課題が突き付けられた今後の社会でどのように持続可能な解決策を見つけ実践していくか、多様な価値観や考えを持った人たちとどのように協働して社会を作り上げていくか、専門性を持ってアイデアを出し合い、「みんなの幸せのため」積極的に行動していく主体性を持った人間が求められているのです。このような方向を目指して「子どもと社会を結びつける」「社会の中でいかに生きていくかを考え、生きる力を育成していく」、このような教育を「キャリア教育」と言います。

私はこの 20 年ほど、キャリア教育の実践と研究に取り組んできました。繰り返しになりますが、教育には思いやりや誠実さ、忍耐力、向上心・・・といったいつの時代にも大切な不易の部分と、時代によって変わってくる流行の部分である「生きる力の育成」があります。その「生きる力」を育てるのがキャリア教育だと思ってください（厳密にいうと不易の部分もキャリア教育に当たるところも多く、大雑把な説明になりますがとりあえずはわかりやすく）。私は 21 世紀に生きる皆さんに必要な力は①自立、②主体性、③共生の 3 つだと考えて教育実践してきました。四日市商業にはすでにどんな時代が来ても必要な“至誠”という「不易」があります。この強みに加えて、時代に求められる資質・能力をプラスすることで、皆さんが将来、この地域を支え、専門性を持ってリードし「みんなが幸せに生きる」社会に貢献できるような人になってほしいし、そんな力を育てられる学校にしていきたいという希望を持っています。

では具体的にどのようにそれを実践していくか。本校に赴任して 1 年間、自分にとって全く未知であった「商業教育」や「商業高校の教育」について自分なりに勉強してきました。その結果、実は商業教育は「キャリア教育」の要素が満載であり、今後の社会にフィットし、21 世紀社会で必要な資質・能力を高めるための高い可能性を秘めていることがわかりました。また、「商業高校の教育」自体も新たな社会を「生きる力」を育成するコンテンツがそろっています。世の中では新たな資質・能力を持った人間を育てることを目的として、やれ「大学入試改革だ」、やれ「アクティブラーニングによる授業改革だ」と主に普通科高校をターゲットとして教育改革を進めていますが、商業教育には、彼らが現状から抜け出せないなら、こちらが新たな時代の教育を先取りし、むしろ主流になっていく可能性があります。皆さんには 21 世紀社会を生きるうえで自分を高め、自分もみんなも幸せに生きる力をつけていくための教育環境が整っているかもしれませんよ。

詳しいことは、だんだんとお話ししていきますが、まずは皆さんも就職のことや日々の部活動のことを考えるだけでなく、「10 年先、20 年先、自分はどのように生活しているのだろう」「どのような生き方をしていたら自分は幸せなんだろう」ということをイメージする所から「キャリア教育」をスタートしてみませんか。

(4 月 26 日)